

第71回広島平和美術展ニュース

71ST HIROSHIMA PEACE ART EXHIBITION

平和の壁に あなたの花一輪を！

[平和美術展開催概要]

【広島平和美術展の趣旨】

いつの時代においても戦争は文化の破壊者でした。核戦争がはじまれば、人類の破滅を意味します。芸術が人間のためにある以上、私たちは芸術を愛し、戦争を否定し、戦争につながるすべての政策、企て、準備、実験などに反対します。特に広島に生きる私たちにとって、それは強い共通の願いです。8月6日を中心に集まり、作品を通して世界平和への願いを表わすために、総合美術展を開き、世界恒久平和を実現します。

1955.8



「般柴運水」
原田遊山 書

会 期：2025年7月27日（日）～8月1日（金）

（いけばな：前期7月27日～29日、後期7月30日～8月1日）

（初日は10:00～10:30 オープニングセレモニー、開場は10:30）

開催時間：10：00～18：00 （ただし最終日8月1日のみ16:00 閉場入場は15:30 まで）

開催場所：広島県民文化センター：地下展示室 広島市中区大手町 1-5-3 (Tel. 082-245-2311)

ごあいさつ

80年前に原子爆弾が広島と長崎で炸裂して以来、その悪魔の核兵器は巨大化し、増殖し、人類滅亡の脅威と化した現在、私たち人類は悪魔が目覚める恐怖と隣り合わせの生活を強いられています。悪魔は眠ったように見せかけながら、人の心をむしばみ、目覚めの時をうかがっているようです。博愛の精神が薄れ、殺戮と破壊が絶えない混とんとした世界状況に、「終末時計」が人類滅亡まで残り89秒と過去最短の時を刻んだことは、私たちの願う核兵器廃絶、世界恒久平和の実現が前途遼遠のようにも思えます。しかし、この状況下で日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは、私たちにとって核兵器のない平和な世界の実現に向けて希望と勇気を与える大きな一歩でありました。地道な活動を決して諦めずに継続することは、真の平和を希求する人間が巨大な悪魔に立ち向かう大きな力になることを示していただきました。

広島平和美術展は、作品の優劣や技術の巧拙を競うものではなく、その趣旨に賛同する者は誰でも参加できる総合美術展です。展示する様々な作品は、一人ひとりの生きる姿です。互いに尊厳と多様性を共有する場として、71年間地道に活動を継続しています。被爆80周年を迎えた今、平和への決意を新たに歩み始めたいと思います。

広島平和美術協会・会長 福長 弘志

★主 催：広島平和美術協会 （問合せ先：事務局 広島市中区幟町 6-15-401 好永方、080-3872-2768）

★後 援：広島県・広島県教育委員会／広島市・広島市教育委員会／（公財）広島平和文化センター／

（公財）ひろしま文化振興財団／（公財）広島市文化財団／中国新聞社／NHK広島放送局／中国放送／

広島テレビ／広島ホームテレビ／テレビ新広島／広島エフエム放送／NPOひろしまインターネット美術館

メッセージ

広島県知事 湯崎英彦



「第71回広島平和美術展」にあたり、広島県民を代表してメッセージをお送りします。昭和30年に始まった本美術展は、あらゆる戦争犠牲者の冥福を祈って開催されるもので、絵画、彫刻、書、写真、いけばな、デザイン、工芸、インスタレーションなどの、様々なジャンルの作品による総合美術展です。広島平和美術協会におかれましては、本美術展の開催を通して、核兵器廃絶や国際友好、世界恒久平和への切なる願いを発信してこられ、心より敬意を表します。

被爆から80年、私たち広島県民は、人類史上初めて原爆の惨禍を体験し、以来、悲惨な被爆の体験を後世に語り継ぐとともに、平和の尊さ、大切さを全世界に訴え続けてまいりました。私たちにとって、核兵器のない平和な国際社会の実現は、長年にわたり切望してきた大きな願いであります。本展覧会の開催が平和への道筋の一つとなることを切に願っております。

結びに、本美術展の御盛会と広島平和美術協会の今後ますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

メッセージ

広島市長 松井一實



第71回広島平和美術展の開催にあたり、広島市民を代表してメッセージをお送りします。今年は被爆80周年という節目の年ですが、世界では各地で紛争が発生・長期化し、緊迫した情勢が続いており、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた取組の重要性と、それを推進していくことの必要性は、従来にも増して大きくなっています。こうした中、美術作品を通して核兵器廃絶と世界恒久平和への願いを多くの方に届けてこられた本美術展は、「国際平和文化都市」を目指す本市が取り組んでいる「平和文化」の振興そのものであり、大変心強く思うとともに、関係者の皆様の長年にわたる御努力に対し、深く敬意を表します。是非とも多くの方々に平和への願いが込められた作品に触れていただき、平和への思いを共有する「平和文化」とともに、真の世界平和の実現を祈念する「ヒロシマの心」が広がっていくことを期待しています。

本美術展の御盛会を祈念して、私のメッセージとさせていただきます。

メッセージ

長崎市長 鈴木史朗



「第71回広島平和美術展」の開催にあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送りします。主催の皆様方におかれましては、長年にわたり美術作品を通じて、被爆地から核兵器廃絶と世界恒久平和への願いを発信されておられることに、心より敬意を表します。今年は被爆80年の節目の年です。被爆者のいない時代が刻一刻と近づいている中、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）のノーベル平和賞受賞という朗報がありました。核兵器使用の脅威が高まっている今、この受賞を追い風に、被爆者からの平和のバトンを、世代を超えてしっかりとつないでいくことが肝要です。

私たち市民社会こそが、平和をつくる基盤です。平和への願いを作品に込めた本展覧会は芸術などの身近な分野を入口に、一人ひとりが平和について考え行動する「平和の文化」そのものであり、作品に触れた人々に共感の連鎖が生まれ、平和の輪が世界中に広がることを期待します。

日本原水爆被害者団体協議会代表委員 箕牧智之



第71回広島平和美術展開催にあたり、関係の皆様のご苦勞に敬意を表します。被爆後1948年に私は小学校に入学しました。被爆のせいか体が弱く、家が貧しくてクレヨンも同級生は12色程度のもので描いていましたが、私は6色のクレヨンしか買っていただけません。母にそのことを言うと「人は人、うちのうち」といつも言われました。小学校1年生の時、みんなで富士山を書くことになり、私だけが富士の色を紫色で描いて先生に怒られたことがありました。それ以来、図画の授業が嫌になり、私には絵を見る、描くという才能が育ちませんでした。被爆者として活動するようになり、原爆の絵を基町高校の生徒さんに描いていただきました。なんと素晴らしい才能の持ち主だといつも感じています。この美術展には、私がお世話になっている宮浦悠莉さんの作品があり、思わずうれしくなりました。卒業まじかに、横倒しになった路面電車の絵をお願いして描いてくださった生徒さんです。美術展期間中、会場へ寄らせていただきたく思っています。

出品者の声

(広島にて・画家 大前博士)

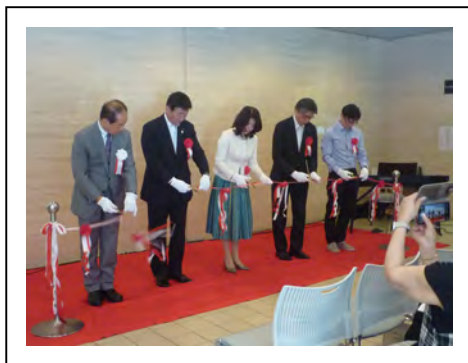
60年ほど前、シベリア鉄道を経てパリに辿り着き絵画の研鑽を積んでいた頃、広島からやって来たと云っても誰も原爆の事を言うものはいなかった。私にとってはそれが当時有り難くもあったが、それは日本が唯一の原爆の被爆国であることが認識されていない証でもあった。実際に被爆した当事者にとってはその壮絶な記憶、身体への影響との戦いの日々であり、そうできるものなら忘れてしまいたい記憶であったが、どんなに年を重ねても私の眼の奥に焼きついている光景が消えて無くなる事はなかった。あの凄まじい白と黒しかない世界を、私がこの目で見続けたあの日を、私の筆致で世界に伝えて続けていかなければならない、なぜなら見てきた者にしか真実はわからない。世界はどんどんと変化し、またしても世界が同じ過ちを繰り返さないためにも、あの地獄を、その現実を絵を通して伝えていくことが、全てを見てきた私の残された使命だと思う。今を生きる子供達の平和な世界が守られていく未来を願ってやまない。

(フランス・絵画 eijilo Ito)

昨年、私は会場で折り鶴を折りながら、平和とは指先と心の意志を繋ぐ行為の中にもあると感じました。2017年フランス国立公文書館で「広島、長崎の被爆者絵画展」が開催された際、会場には原子爆弾の被害と歴史学んだフランスの子供達が描いたマンガとその授業の写真が会場に展示されていました。その日から今日まで私は美術授業の中でフランスの子供達が平和を願って制作した作品を広島市、長崎市で展示し、帰国後その様子を子供達に報告しています。「創造の根源は、子どものように学ぶこと」まさに創造は平和の種である。そう願ってやみません。ノーベル平和賞そして71年続けて来られた皆様の生き方、創造的活動に心から敬意の念を感じながら参加させて頂いております。

前回(第70回記念)広島平和美術展の概要

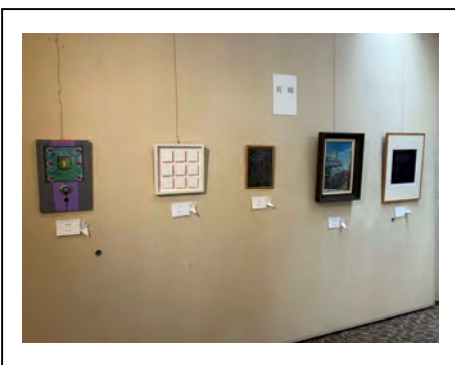
会 期	2024 年 7 月 28 日(日)～8 月 2 日(金) (6 日間) 10 時～18 時
会 場	広島県民文化センター地下展示室： 広島市中区大手町 1－5－3 (Tel.082-245-2311)
種 目	絵画・彫刻・書・写真・いけばな・デザイン・工芸・インスタレーション 他
形 式	アンデパンダン展 (無審査)
内 容	展示総数:286 点 県内 257 点(絵画 122 点・書 34 点・写真 7 点・工芸 10 点・いけばな 75 点 ・インスタレーション 4 点・彫刻 2 点・デザイン 3 点) 県外 20 点 (長崎 5、島根 1、千葉 2、岡山 1、兵庫 1、埼玉 1、山口 1、東京 2、大阪 1、 神奈川 3、佐賀 1、三重 1) 国外 9 点 (フランス 3、韓国 4、中国 2)
入場者	3,249 名
関連行事	オープニングセレモニー (挨拶、合唱：広島少年合唱隊、テープカット、 創設メンバーの作品出展、千羽鶴の作成・原爆の子の像への奉納)



テープカット



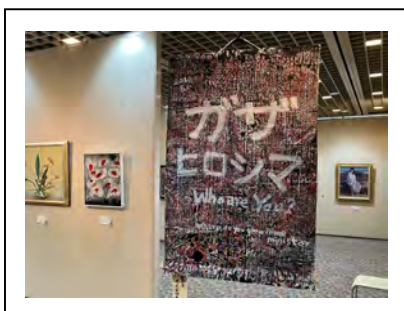
広島少年合唱隊



長崎との交換作品



折鶴制作



会場風景



折鶴奉納